

新型コロナウイルス感染症対策について

1 患者発生状況

(1) 患者数 (感染者累計: 15,244 件)

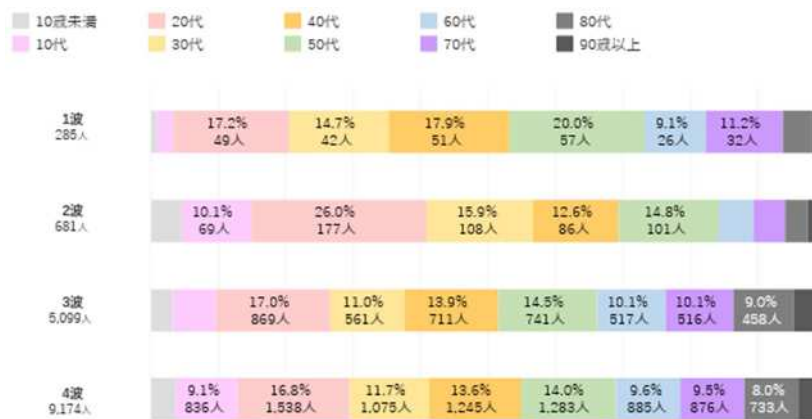
●直近の状況 (発表日ベース)

6/14~ 46人 前週の同日比 (累計) -25人 -35%

	期間	月	火	水	木	金	土	日
今週	6/14~6/20	6/14	6/15	6/16	6/17	6/18	6/19	6/20
	感染者数	8	16	13	9			
	累計/週	8	24	37	46			
	先週比 (累計)	-1	-9	-15	-25			
	先週比 (%)	-11%	-27%	-29%	-35%			
先週	6/7~6/13	6/7	6/8	6/9	6/10	6/11	6/12	6/13
	感染者数	9	24	19	19	17	15	8
	累計/週	9	33	52	71	88	103	111
先々週	5/31~6/6	5/31	6/1	6/2	6/3	6/4	6/5	6/6
	感染者数	16	53	41	28	33	32	15
	累計/週	16	69	110	138	171	203	218

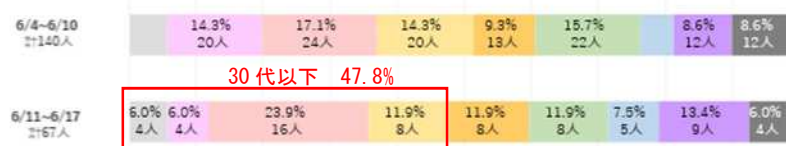
(2) 年代別の発生届出状況

・直近1週間では30代以下が47.8%を占めており、若年層の感染者の割合が多い現状にある。



(注釈)
 ・「1波」は2020年3月8日から2020年6月22日、「2波」は2020年6月23日から2020年9月23日、「3波」は2020年9月25日から2021年2月28日、「4波」は2021年3月1日以降。

▼直近2週間の状況



(3) クラスターの発生状況

- ・クラスターの発生状況としては、6月17日現在、累計で175件。
- ・変異株の感染力の強さにより、感染がかなり拡大した後に把握される事例も多い。

	件数					人数	
	3/3-5/20	6/23-9/23	9/25-2/28	3/1~	件数合計	人数	割合
保育所・学校	1	3	10	25	39	437	13.0%
高齢・障害福祉施設	1	2	18	48	69	1358	40.5%
病院	2	1	14	15	32	1196	35.7%
公的機関	2	0	2	1	5	54	1.6%
民間事業所	0	0	5	11	16	199	5.9%
酒類提供飲食店	0	2	5	2	9	66	2.0%
スポーツ・娯楽施設	0	0	4	1	5	44	1.3%
合計	6	8	58	103	175	3,354	100%

(4) 変異株について

①変異株の概要

ウイルスは常に少しずつ変異することが知られており、新型コロナウイルスについても2週間程度で変異を繰り返していると言われている。この変異の中で、病気の感染力や免疫効果の低下に影響があると考えられる変異の有無を見ていくことが必要である。

現在、ヒトの細胞と結びつく部分に変異し、感染力の増加が懸念される①アルファ株(N501Y変異)や、感染力の増加に加え、免疫効果の低下が懸念される②ベータ株、③ガンマ株(いずれもN501Y変異+E484K変異)、④デルタ株等(L452R変異)の変異、さらには⑤E484K変異等の変異株が確認されている。

②本市の対応

神戸市では、検査の精度管理やクラスター事例の事後検証のため、市内医療機関の協力を得て全陽性検体の約5～6割を保健所が収集、健康科学研究所において自らゲノム解析を実施。この体制を活用し、変異株の発生以降も、変異株を迅速かつ的確に検出できる監視体制(今後の新たな変異株の確認も含む)を整え、早期発見・早期対応による感染拡大・クラスター防止を強化する。また、変異株の状況について、市民に正確な情報発信を行う。

神戸市内の変異株確認状況

○ アルファ株(N501Y変異) ※これまでの神戸市内の全てのN501Y変異はアルファ株

届出日	市内新規陽性患者	変異株検査数	検査数の割合	変異株陽性数	変異株の割合	ゲノム確定数	ゲノム確定数の割合
4月26日-5月2日	1,356	493	36.4%	479	97.2%	353	71.6%
5月3日-5月9日	1,102	424	38.5%	414	97.6%	299	70.5%
5月10日-5月16日	901	356	39.5%	353	99.2%	243	68.3%
5月17日-5月23日	574	225	39.2%	223	99.1%	165 [1]	73.3%
5月24日-5月30日	298	155	52.0%	154	99.4%	115 [4]	74.2%
5月31日-6月9日	218	120	55.0%	119	99.2%	73 [1]	60.8%
2月1日からの累計	9,635			3,726		2,824 [6]	

- ※1 変異株検査数割合は新規陽性患者の増加に伴い、一時的に低下しています。
- ※2 変異株陽性数は変異株 PCR 検査（N501Y 変異 PCR）で陽性となったものを示す
- ※3 ゲノム確定数は変異株 PCR 検査で陽性であったもののうちゲノム解析で検査結果が判明したものを示す
- ※4 ゲノム確定数の[]は N501Y 変異に加えて E484Q 変異を持つアルファ株（令和3年6月1日、6月4日発表済）

○ デルタ株等（L452R 変異等）

3 (～6/14 届出日)

※令和3年5月20日公表分の L452R 変異株感染事例1件（市外発生届分）についてはゲノム解析で型別の確定に至らず

○ E484K がある変異株

126 (～6/6 届出日)

2 医療提供体制

(1) 医療提供体制の現状

入院・入所・自宅療養者数の直近の比較

	直近の状況			【参考】 過去の入院・入所患者ピーク		
	6/17	6/10	差	(1月～5月)	(9月～12月)	(5月～8月)
入院・入所患者	155人	205人	-50	429人	304人	152人
入院患者数	128人	177人	-49	276人	170人	152人
（うち重症）	(10人)	(17人)	-7	(23人)	(11人)	(9人)
宿泊療養施設入所患者	27人	28人	-1	153人	134人	人
自宅療養者	31人	96人	-65	288人	—	—
入院調整中	37人	87人	-50	1509人	254人	—

※市内在住者の数字

- ・入院が必要な患者については、適切な感染予防策が取れる医療機関へ入院するとともに、軽症または無症状の患者については、医師の判断により宿泊療養施設に入所している。また、1月21日より、宿泊療養施設の入所よりも自宅での療養が適切な方については、一定の条件（経皮的動脈血酸素飽和度（SpO₂）が96%以上の者）を設けて自宅療養を実施している。

① 入院の状況

- ・6月17日現在で病床使用率は43.0%、入院率は57.0%となっており、自宅療養者数は31人、入院待機者数は37人（うち指定外医療機関、福祉施設で療養中12名）となっている。新規感染者数が減少し、医療提供体制も改善に向かっている。

②自宅待機者等への往診等の実施

- 患者が急増した4月23日以降、入院調整中の自宅待機者等に対し、できる限り受診（電話や往診）の機会が増えるよう、市民病院機構では、患者の重症化を防止するため、特に経皮的動脈血酸素飽和度（SpO₂）が低い方への往診等（抗炎症薬（ステロイド）の処方や酸素投与等）を実施。さらに、他の病院についても往診等を実施することとした。神戸市医師会及び神戸市薬剤師会の協力による健康観察等の軽症者への支援を行うこととした。（297医療機関）。

（5月31日現在 訪問診療・電話診療627件）

- 酸素濃縮装置（90台）を確保し、入院調整中患者の重症化を予防するため酸素投与を実施。（令和3年4月30日～）

（5月31日までの稼働実績：29台）

③病床確保

○確保病床数

	増床数	市民病院機構 (3病院)	その他市内医療機関 (18病院)	合計 (21病院)
4/15(木)から	—	125床	86床	211床
4/19(月)から	+18床 (4病院：公的1・民間3)	125床	104床	229床
4/22(木)から	+7床 (4病院：公的1・民間3)	125床	111床	236床
4/28(水)から	+8床 (1病院：公的1)	125床	119床	244床
4/30(金)から	+4床 (1病院：民間1)	125床	123床	248床
5/1(土)から	+11床 (2病院：公的1・民間1)	125床	134床	259床
5/7(金)から	+8床 (1病院：民間1)	125床	142床	267床
5/10(月)から	+24床 (西神戸医療センター・ 神戸大学医学部附属病院)	134床	157床	291床
5/21(金)から	+14床 (2病院：公的1・民間1)	134床	171床	305床

※6/22(火)より順次、市民病院機構（西市民病院・西神戸医療センター）の病床を計△32床、また、その他市内医療機関（民間）の病床を計+9床 合計282床となる予定

○市民病院での医療制限の状況

	外来	入院・手術等		入院・手術等
中央	影響なし	4割程度を制限 ※4/26より	→	入院：2割程度を制限 手術：病床の範囲内で実施
西	影響なし	4割程度を制限 ※5/10より（病床拡大後）	→	2割程度を制限
西神戸	影響なし	4割程度を制限 ※5/10より（病床拡大後）	→	2割程度を制限

※救急外来について

ウォークイン：各病院とも通常どおり

救急搬送：対応可能な病床の範囲内で受け入れ

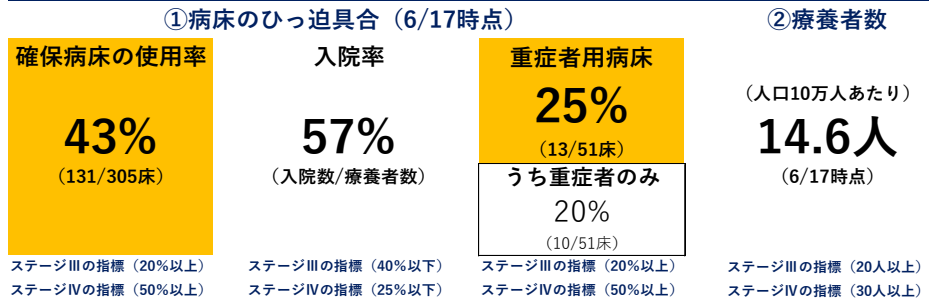
- 重症患者病床使用率（6/17時点） 25.5%（13床/51床） ※5月21日より51床確保
うち重症者のみの使用率 19.6%（10床/51床）
（重症者入院内訳）

- ・中央市民病院（重症者専用病床）：7床/36床

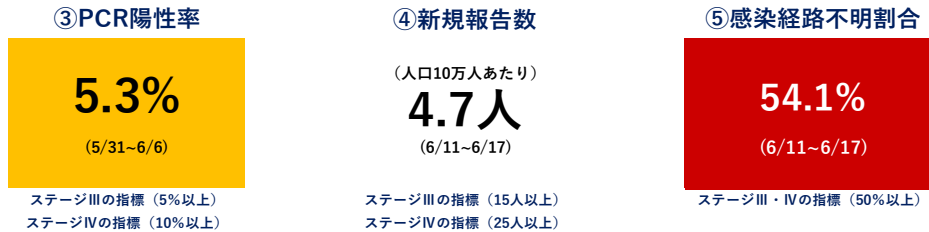
重症（1西A）	4人	計7人
中軽症～重症（1西B）	3人	

- ・神戸大学附属病院の重症者専用病床：5床/10床 ※5月10日より10床確保
- ・民間病院（1病院）：1床/5床 ※5月21日より5床確保

医療提供体制等の負荷

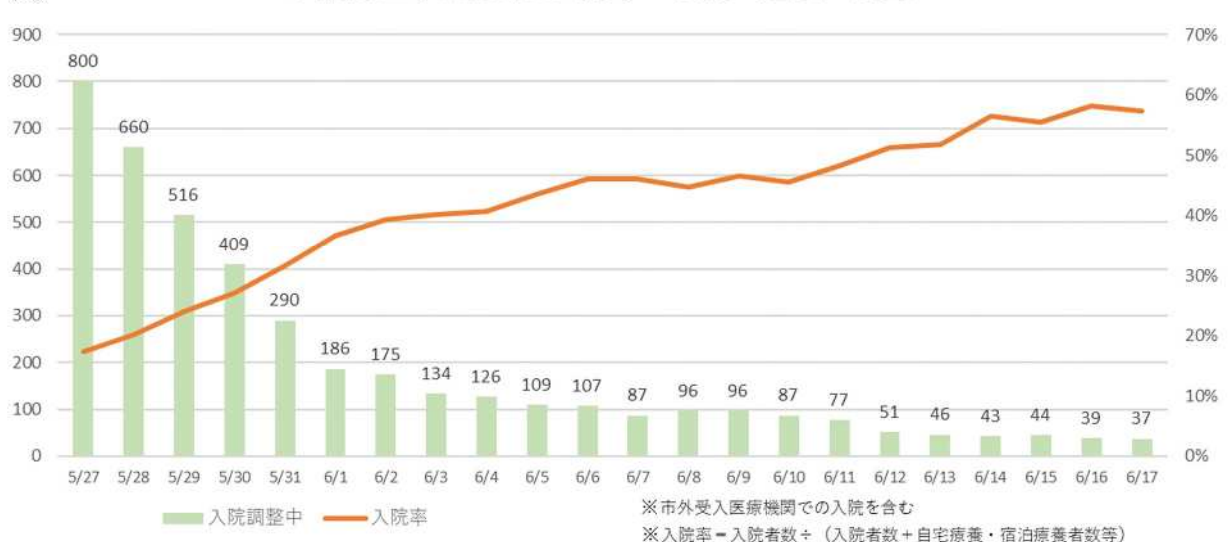


感染の状況



■ ステージIIIの基準に達している。
■ ステージIVの基準に達している。

入院調整中患者数と入院率の状況（直近3週間）



(2) 宿泊療養施設の現状

- ・医療機関の負担を軽減し、新たな入院患者の病床を確保するため、市内3施設において合計298室を確保
- ・6月17日時点で、31名入所中であり、全体の占有率は10.4%

施設名	入所状況
	(6/17時点)
ニチイ学館 ポートアイランド宿泊棟 令和2年4月11日～	15/100室 15%
東横INN 神戸三ノ宮駅市役所前 令和2年8月19日～	16/110室 15%
東横INN 神戸三ノ宮 I 令和2年12月19日～	0/88室 0%

※市外在住者を含む

7月1日～知的障害者、精神障害者の方で個別・集団接種会場での接種が困難な方のワクチン接種に転用

(3) 自宅療養の現状（6月15日時点 46人）

(ア) 対象者

次の①かつ②に該当する者。

- ①無症状または軽症で、経皮的動脈血酸素飽和度（SpO₂）が96%以上の者
- ②独居の者は、自ら健康管理できる方で感染症対策の取れる方や、同居者がいても個室隔離や消毒などの感染症対策の取れる者

(イ) 健康観察

各保健センターが以下の通り自宅療養者の健康観察を実施。

- ①健康管理アプリ（2月4日より運用開始）または電話にて定期的に本人の健康状態を確認しており、必要に応じて訪問も実施。
- ②症状の悪化を早期に見つけるために、パルスオキシメーター（経皮的動脈血酸素飽和度（SpO₂）を測定する機器。全市で3,550台を確保。）を全員に貸し出し、本人による1日2回のチェックを実施。
- ③自宅療養中に状態が悪化した場合は、24時間対応の区の保健センターに本人から連絡していただき、中等症・重症になる恐れがある方を迅速に把握するようにしている。その際、救急搬送が至急必要な場合は、消防局と連携をとりながら入院先の調整を行い、救急車での搬送を実施。
- ④自宅療養者等に対し、できる限り受診（電話や往診）の機会が増えるよう、神戸市医師会及び神戸市薬剤師会の協力による健康観察等の軽症者への支援を行った（297医療機関。4月23日～）。また、市民病院機構では、患者の重症化を防止するため、特にSpO₂が低い方への往診等（抗炎症薬（ステロイド）の処方や酸素投与等）を実施（4月23日～）。さらに、他の病院についても往診等を開始している。

（5月31日現在 訪問診療・電話診療 627件） 【再掲】

(ウ) 自宅療養支援セット

令和3年2月8日より、自宅療養となった方のうち、食料調達が困難な方には10日の食品（レトルト食品、飲料など）と日用品（マスク、手指消毒薬、ゴミ袋など）を無償で配布。

6月15日現在1,607セットを配布済み

○自宅療養支援セットの送付年代数（6月15日時点）

10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代 以上	合計
65人	134人	258人	248人	295人	244人	155人	136	64人	8人	1,607人

(エ) 酸素濃縮装置【再掲】

酸素濃縮装置（90台）を確保し、入院調整中患者の重症化を予防するため酸素投与を実施している。（令和3年4月30日～）

（5月31日までの稼働実績：29台）

3 感染拡大防止

(1) 相談状況（令和2年1月27日～令和3年6月8日）

※③チャットボットは3月31日まで

相談窓口	件数（件）
①各保健センター（令和2年1月29日～）、 保健所予保健課（令和2年1月27日～）	13,318
②新型コロナウイルス専用健康相談窓口（令和2年2月1日～） ※旧「帰国者・接触者相談センター」の件数含む	121,178
③チャットボット相談（令和2年5月20日～） 聴覚障害のある方や電話が苦手な方でも時間と場所を問わず、スマートフォン・タブレット等画面で気軽に相談先や受診先を確認できるツール。	46,681
計	181,177

※専用健康相談窓口最大相談件数：4月13日1,047件

※専用健康相談窓口直近（1週間）平均相談件数：165件（令和3年6月2日～6月8日）

(2) PCR検査体制について

市内で一日あたり最大1,300検体の検査体制を確保。

（当初令和2年1月末時点24検体（環境保健研究所（当時）のみ）→令和3年4月1日～1,300検体）

検査機関名	検査能力	備考
健康科学研究所	142 検体/日	当初 24 検体
シスメックス検査センター	300 検体/日	
市内医療機関	200 検体/日	
医師会設置 検査センター	40 検体/日	検査センター移転拡充(令和2年11月30日～) ドライブスルー方式
プール検査	618 検体/日	令和3年4月1日～
合 計	1,300 検体/日	

(3) 積極的検査の実施状況

(ア) 医療機関, 福祉施設, 学校園

- ・患者発生の場合, 国基準(濃厚接触者)を超え, 積極的検査を引き続き実施する。

(イ) 酒類を提供する飲食店(令和2年8月20日～)

- ・地域クラスターに拡大する可能性をより早期に積極的に防止していくため, 11月19日より「基本的に店名は公表しない」として積極的に検査申し込みができるようにし, 市内飲食店(約14,000件)に12月11日に通知。
- ・検査実績 令和2年度; 35店 206名(うち令和2年11月19日以降では31店186名)
令和3年度; 12店 59名(6月15日現在)

(ウ) 介護・障害入所施設の職員に対する積極的検査

- ・検査資源を最大限・効果的に活用しながら, クラスターの防止と医療提供体制の安定的な確保のために, 特別養護老人ホーム, 介護付き有料老人ホーム, 障害児・者入所施設における無症状の直接処遇職員に対する積極的(計画)検査を令和2年11月25日から実施。

※施設の職員約5,900人(125施設)に対し順次実施

検査実績 103施設 4,566件

- ・さらに, 感染拡大・クラスター防止を強化するために, 民間検査機関によるプール検査(4検体をまとめて検査を行う検査手法)を活用することで, 令和3年4月1日から, 対象施設を老人保健施設, グループホーム等の全ての入所施設への拡大に加え, 国が示す検査対象施設の範囲を超えて全ての通所施設にも拡大。(通所施設での実施は政令市初)
- ・対象施設及び対象者(※下線: 令和3年度に追加)
高齢者, 障害児・者入所及び通所施設における直接介護等に従事する職員

【入所施設】

- ・高齢施設: 特別養護老人ホーム, 介護付き有料老人ホーム, 養護老人ホーム, 老人保健施設, 介護医療院, ケアハウス, 認知症対応型共同生活介護(グループホーム)
- ・障害施設: 施設入所支援, 障害児支援施設, 共同生活援助(グループホーム)

【通所施設】

- ・高齡施設：通所介護（デイサービス）、通所リハ、地域密着通所
- ・障害施設：生活介護（デイサービス）、短期入所、自立訓練、就労継続支援(A)、就労継続支援(B)、就労移行支援

- ・検査施設数及び検査人数

1,600 施設（約 38,000 人）

- ・検査期間

令和3年4月1日～半年程度（ワクチンの接種状況による）、月1回程度のペースで定期的に実施

※これまで、検査手順に同意した全ての施設の検査完了に約4か月を要していたものを、プール検査の活用により約1か月に短縮

※更なる感染拡大・クラスター防止体制強化のために、今後、施設におけるワクチン接種が進んだ段階で週1回程度に頻度を上げることを検討。

- ・検査実績 386 施設 12,283 件（5月31日時点）

（エ）陽性患者発生の高齡・障害者入所施設への積極的検査（令和2年12月1日～）

- ・高齡者、障害児・者入所施設において、陽性患者が発生した場合（新規発生・施設での積極的検査による発生）、上記に優先して、当該施設の入所者及び直接処遇職員の全員に対して検査を実施。

・検査実績 令和2年度 28 施設（40回） 1,494 件

令和3年度 34 施設（57回） 2,091 件（6月15日現在）

（4）感染症神戸モデルの強化（早期探知地域連携システム）

感染症神戸モデル（保健所による平時からの施設への感染対策指導などの取組み）を強化して、各保健センター保健師を1名増員して指導体制を強化し、施設訪問・研修などによる感染対策指導を徹底し、感染拡大・クラスター化防止を強化する。

具体的には、神戸モデル推進チームによる、新型コロナウイルス感染症のクラスター対策を行う。

（増員した保健師を含め、区の保健師がチームを組んで地域の施設を巡回訪問等により、感染対策の助言指導を行う。）

1. 全施設（高齡者施設・障害者施設・学校・保育施設等）におけるセルフチェック

- ・これまでの新型コロナウイルス感染症のクラスター事例から、施設でのチェックポイントをまとめ、施設でセルフチェックしてもらい、感染症対策の不十分などところがないか確認してもらおう。
- ・セルフチェックで対策が不十分な項目が多く、対応について悩んでいる施設へは訪問などにより助言指導する。
- ・継続してチェック、地域の感染対策の状況を集約できるよう、ICTの活用

2. これまでにクラスター化した施設の再発防止

- ・これまでに複数の感染者が発生した施設の中で、特にハイリスク者を対象とする施設を中心に、感染予防対策が継続して実施されているか、巡回訪問によりチェックを行い、再発防止に努める。

(5) 積極的疫学調査等の重点化

感染者数が爆発的に急増したことで、保健所業務が著しく増大し、新規感染者への対応が難しくなったことから、当面の間、積極的疫学調査の対象を患者、同居家族、高齢者・障害者施設に絞り、自宅療養者の健康管理を重点的に行った。この間、医療機関による往診の導入を進め、早期に在宅での酸素投与や抗炎症薬の投与が開始されたことにより、重症化する患者が減少傾向にある。今後も在宅療養者への支援を重点的に行っていく。

また、高齢者・障害者施設では、感染拡大・患者の重症化を起こしやすいため、引き続きクラスター対策を強化していく。

4 医療機関支援

(1) 新型コロナウイルス感染症対応医療機関支援補助金

(ア) 入院勧告を受けた患者及び擬似症患者の入院受け入れに対して、

- ・患者1人あたり12,000円×入院日数(上限20日)
- ・平日1人1回30,000円、土日祝1人1回60,000円を加算

(イ) 検査のための検体採取に対して、

- ・令和2年4月1日～5月21日(緊急事態宣言中)の採取 4,000円×被検査人数
- ・令和2年5月22日以降の採取 3,000円×被検査人数

(2) こうべ病院安心サポートプラン事業補助金

(ア) 院内感染防止基本対策

个人防护具着脱手順の再徹底研修、iPadなどの感染症患者との遠隔コミュニケーションツールの活用など、市が掲げる取り組みのうち3つ以上の実施に対して、1月あたり30万円

(イ) 院内感染防止追加対策

基本対策に加えて、原則として10床以上の新型コロナウイルス感染症専用ゾーンを1月あたり1週間以上の設置に対して、1月あたり550万円

(ウ) 発熱等救急患者の入院受け入れ及び夜間外来診療対策

発熱等の症状を有する救急患者の入院受け入れ及び新型コロナウイルス感染症患者(疑い患者を含む)への夜間外来診療を行う2次救急医療機関に対して、患者1人あたり3万円

(3) 遠隔 I C U システム (9 医療機関で導入)

重症化を恐れて感染症患者が市内医療機関から中央市民病院に早期に転送されることを抑制し、中央市民病院が重症患者への対応を重点的に行うことができるよう、株式会社 T-I C U が提供する「遠隔 I C U (集中治療支援) システム」を市内の医療機関に導入し、T-I C U に登録している集中治療専門医が待機するサポートセンターとネットワークでつなぎ、生体情報モニター、電子カルテ等の情報を共有してコンサルテーションを行う。

また、中央市民病院が感染症指定医療機関としての実績を踏まえ、T-I C U に対して新型コロナ患者に係る知見を共有し、治療方針等の助言を行う。

(4) コロナ治癒後の転院促進

新型コロナウイルス感染症から回復した後、引き続き入院管理が必要な患者については、病状に応じて適切な医療機関、病床等で療養いただき、救急等の通常医療の病床を確保することが必要である。

そのため、コロナ治癒後の転院受入可能病院リスト (73 病院) をコロナ受入病院に配布するとともに、治癒後の患者が速やかに転院調整出来るよう支援を行い、稼働病床の確保に努めている。

また、3 次救急医療機関に新型コロナウイルス感染症で入院し、隔離を解除したものの、引き続き高度な治療を要する重症患者の転院受入を行う、市内の医療機関に対し、1 人 1 日当たり 25,000 円 (上限 10 日) を補助する。

さらに、万が一、受入患者を発生源とした院内感染が発生した場合は、保健所からの指示による病院閉鎖に伴う新規入院患者の受入れ減少等に対して見舞金 (閉鎖病棟の病床数当たり 90,000 円) を交付。

5 情報発信・風評被害対策など

(1) 情報発信・風評被害対策

- ・新型コロナウイルス感染は特別なことではなく誰もが感染する可能性があること、新型コロナウイルス感染症に関わる人々にあたたかいまなざしを送ってほしいことについて、駅のデジタルサイネージ等を活用して啓発（下記参照）。
- ・偏見を生む主な理由として、正確な知識・情報の不足による不安があることから、その不安解消のため、例えば、新型コロナウイルス感染症は空気感染ではなく飛沫感染及び接触感染であることなどの基礎知識や、受診・検査や入退院などのフローチャートを市のホームページに掲載するなど、正確な情報を発信する。
- ・令和2年9月より募集していた医療従事者等へ感謝の気持ちを伝える感謝・応援メッセージ（41件）を市内医療機関等へ送付。
- ・感染症の知識や正しい行動、ワクチンの効果・安全性について普及啓発する動画を作成し、5月10日から市ホームページやワクチン集団接種会場、YouTube等を通じて配信を開始した。また、神戸市公式YouTubeチャンネルで「今、できることを～自分からできるコロナ対策を考える」というテーマで医療従事者・大学生・地域からのメッセージ動画を配信（6月17日現在で約32万回再生）。
- ・さらに6月1日から新型コロナの恐ろしさを正しく理解してもらい、感染防止対策の徹底、リスクの高い行動の自粛を呼びかけるため、感染患者の実体験をホームページにて音声データで発信している。



(2) 患者本人や家族等コロナの影響を受けた方へのこころの相談

各区保健福祉部等において、保健師及び精神保健福祉相談員が対応。

(3) 医療従事者等への心のケアにかかる電話相談窓口の設置

医療従事者や社会福祉施設従事者等に特化して、心のケアを行うことを目的に令和2年6月26日から電話相談窓口を設置。

- ・相談件数 270件（令和3年5月末現在）

(4) 自殺防止電話相談窓口の運営等

精神保健福祉センターにおける「自殺予防とこころの健康電話相談」（令和2年12月～2回線増設し計4回線）を運営するとともに、弁護士及び専門職が相談に応じる「くらしとこころの総合相談会」をハローワークにて実施（令和2年7月～）。

・「自殺予防とこころの健康電話相談」相談件数

令和2年度	3,848件	（前年度比	126%）
令和3年度（5月末現在）	833件	（前年度比	147%）

・「くらしとこころの総合相談会」相談件数

令和2年7月～令和3年5月	158件
---------------	------

6 市民への要請状況

市民・事業者に対して、若年層にも有効な SNS などの広報媒体も最大限活用し、具体的でわかりやすい事例や対策を紹介し、感染防止対策の徹底を改めて求める。

《最重点感染防止対策》

感染者の8割程度は、十分な距離を取らず、マスクを外して会話したことが原因で感染している。そこで、神戸市として特に市民にお願いすることは、「マスク」と「距離」

- ① マスクを外して会話をしない。
- ② 食事などで会話するときは、
 - ・1m以上距離をとる。
 - ・斜めに座る。横に並ぶ場合は、一つ席を空ける。
 - ・大声を出さない。

これまで対応方針に定めていた「基本的感染防止対策」のうち、上記2点を「最重点感染防止対策」として、市民への周知を徹底する。

また、屋外のバーベキューやカラオケ喫茶など、身近な感染リスクを紹介したウェブページを活用し、改めて感染リスクとその対策について、周知を進めていく。

7 新型コロナワクチン

(1) ワクチン接種の意義

新型コロナワクチンは、新型コロナウイルス感染症の発症や重症化を予防するものであり、新型コロナウイルス感染症対策の切り札である。(発症予防効果は約 95%と報告されている。)

多くの市民に接種を受けていただくことにより、

- ①たとえウイルスに感染しても、発症や重症化を防ぎ（接種を受けた本人の健康）、
- ②入院患者が減少することにより病床のひっ迫を防ぐこと（発症者・重症者の発生抑制による医療提供体制の安定化）

につながる。

神戸市においても新型コロナウイルス感染症対策の決め手として、市民に迅速でスムーズな接種が行えるよう必要な体制を整えるとともに、より多くの市民に対してワクチンの効果、安全性などの正しいデータを周知することにより、積極的に接種を呼び掛けていく。

なお、新型コロナワクチンの接種は、予防接種法上、接種を受ける努力義務があるとされている。ただし、妊婦については接種データが少ないため努力義務から除外されている。

さらに、ファイザー社の新型コロナワクチンについては 12 歳以上が薬事承認の対象となっているため、12 歳未満は接種対象外となっている。(6/22～接種開始予定の武田/モデルナ社のワクチンについては、18 歳以上の者が対象)

発症・重症化予防を進めるとともに、神戸の医療提供体制を守るために、市内の医療関係者が一丸となった連携体制により、ワクチン接種を迅速に進め、7月中旬の高齢者接種終了を目指す。

(2) 推進体制

①ワクチン接種対策室設置（令和3年1月18日）

（2月15日 厚生労働省予防接種室（自治体サポートチーム）に職員1名を派遣）

②神戸市新型コロナワクチン庁内対策本部設置（令和3年4月27日）

ワクチン接種はこれまで経験したことのない複雑かつ膨大な事務を伴う事業であり、接種率向上や迅速な接種に向け、全庁挙げた協力体制が必要であることから、4月27日に「神戸市新型コロナワクチン庁内対策本部」を設置し、ワクチン接種に係る庁内体制を強化した。

③神戸市新型コロナワクチン接種連携本部設置（令和3年2月5日）

神戸市・一般社団法人神戸市医師会・公益社団法人神戸市民間病院協会・一般社団法人神戸市薬剤師会の四者合同で「神戸市新型コロナワクチン接種連携本部」を設置。

令和3年5月7日から、神戸市歯科医師会も参加。公的病院の協力も得ながら、高齢者をはじめとする一般市民向けのワクチンの迅速な接種に向け、連携して取り組んでいる。

(3) 市内ワクチン配送ネットワークの構築

① 「市内配送拠点」の設置

ワクチンを集中管理し、接種場所へ効率的に配送するために、神戸市独自策として「市内配送拠点」を各区役所に設置。

② 「ワクチン集中調整センター」の設置

市内のワクチンの状況を網羅的に把握し、必要な接種場所に、必要な量を即時に配分するための神戸市独自策の「ワクチン集中調整センター」を設置。

(4) スケジュール

3月 1日	専用コールセンターの開設
3月 14日	集団接種会場におけるシミュレーション
4月 12日	高齢者施設での優先接種を段階的に開始
4月 19日	接種券（75歳以上）の発送
4月 20日	予約受付の開始
5月 10日	集団接種会場での接種開始
5月 17日	個別接種場所（診療所・病院）での接種を順次開始 接種券の発送（65歳以上75歳未満順次）
5月 25日	ハーバーランドセンタービル（歯科医師による接種体制）での接種開始
5月 31日	ノエビアスタジアム神戸での接種開始
6月 11日	接種券の発送（16歳以上65歳未満順次）
6月 22日	集団接種会場5会場の追加設置（平日・土曜の午前接種対応開始） 巡回接種の派遣開始
7月中	集団接種会場7会場の追加設置（集団接種会場合計：25会場）
7月中旬	高齢者接種の終了見込み

※6月24日までに16歳以上の市民全員へ接種券を送付。

※7月5日以降59歳以下の市民の予約を順次開始し、7月20日には16歳以上の市民全員が予約可能となる。

(5) 接種場所

市民に身近で健康状態を良く把握している病院・診療所等での「個別接種（6月14日時点784か所）」と、かかりつけ医がない方や診療所等の開院時間での接種が難しい場合などに対応した「集団接種会場」「大規模接種会場」での接種を組み合わせ実施。

知的障害者、精神障害者の方で個別・集団接種会場での接種が困難な方が保護者同伴・個室で接種可能な専用の接種会場（東横INN神戸三ノ宮1（ワン））を7月1日から開設。

また、寝たきり状態にある高齢者等で医療機関や大規模・集団接種会場に行くことができず、往診での接種もできない方に対してご自宅でワクチン接種ができるよう、医師や看護師で構成される巡回接種チームを派遣。まずは6月22日より今回協力いただいた中央市民病院救急救命チーム1チームにより開始し、その後の状況を踏まえて、本市で雇用した医師等によるチームを増やすことを検討していく。

○病院・診療所等（個別接種施設）

東灘区	117箇所	長田区	43箇所
灘区	91箇所	須磨区	77箇所
中央区	122箇所	垂水区	93箇所
兵庫区	52箇所	西区	99箇所
北区	90箇所	合計	784箇所

○集団接種会場

（6月14日現在）

【既設会場】

		施設名
1	東灘区	御影公会堂1階
2	灘区	JR灘駅駅舎3階
3	灘区	B B プラザ神戸
4	中央区	サンパル7階
5	兵庫区	兵庫区役所2階
6	兵庫区	イオンモール神戸南店3階
7	北区	北区文化センター本館1階
8	北区	エコール・リラショッピングセンター本館5階
9	長田区	長田区文化センター3階
10	須磨区	須磨区役所4階
11	垂水区	垂水区文化センター3階レバンテホール
12	西区	西神中央駅2階北側
13	西区	西水環境センター玉津処理場3階

【6/22～設置】

	地区	施設名
14	東灘	神戸ファッションプラザ9階
15	中央区	IHDセンタービル9階会議室 (WHO神戸センター隣)
16	中央区	神戸学院大学ポートアイランド 第2キャンパス 学生ラウンジ
17	須磨区	須磨パティオ健康館2階
18	西区	キャンパススクエア本館2階(リバティホール)

【7月中に設置】

		施設名
19	東灘区	甲南大学平生記念セミナーハウス
20	中央区	市役所1号館24階 18:00～21:00
21	北区	イオンモール神戸北店イオンホール
22	北区	すずらんホール
23	須磨区	水道局西部センター3階
24	垂水区	ダイエー舞子店(2階空き店舗区画)
25	西区	西神南センタービル1階・6階空き区画

○大規模接種会場（神戸市独自に設置）

ワクチン接種を迅速に進め、発症・重症化予防を図るとともに、医療提供体制を守るために、神戸市独自の大規模接種会場を設置

① 神戸ハーバーランドセンタービル3階（歯科医師による接種体制）

1日平均約1,000人を想定（段階的に2,000人まで）

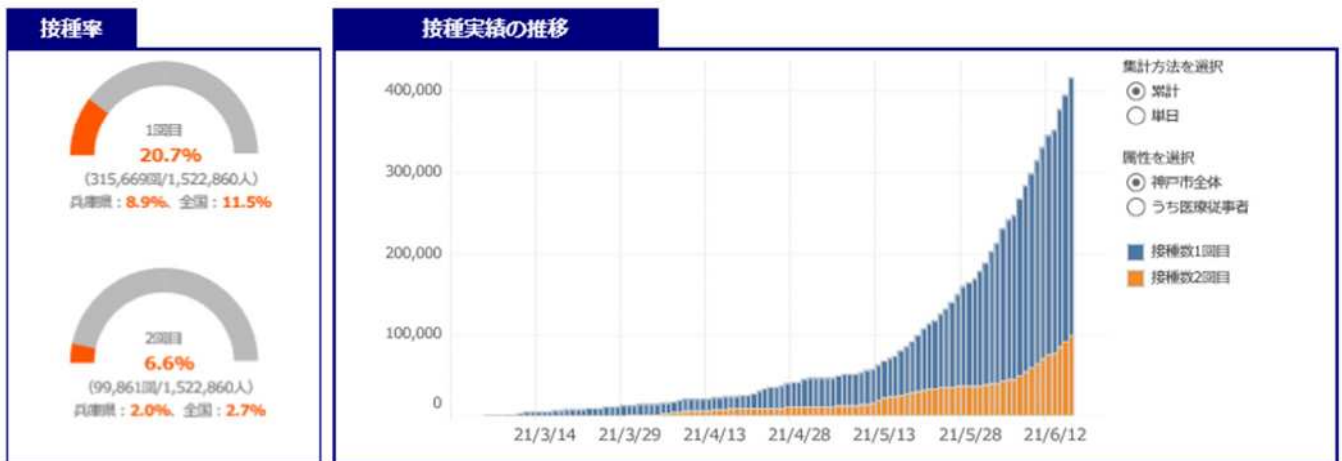
② ノエビアスタジアム神戸

1日平均約1,300人を想定（段階的に5,000人まで）

（6）実施の状況

2021年6月16日までに報告があった接種実績

総接種人数 **315,669**人 総接種回数 **415,530**回(前日比: +21,527回) 1回目接種数 **315,669**回、2回目接種数 **99,861**回



(注釈)

- ・前営業日までに報告があった接種実績を公表しています。(平日)
- ・速報値なので、後日修正される場合があります。
- ・接種率は「住民基本台帳に基づく人口(2021年4月30日時点)」で算出しています。兵庫県及び全国の接種率は内閣官房IT総合戦略室の情報をもとに作成しています。

(7) 接種後に副反応が発現した場合の24時間専用相談電話の設置

ワクチン接種後には、注射した部分の痛みなどの副反応が見られることがあるが、そのほとんどが接種後数日で回復する。一方、接種後、副反応を疑う重い症状が続き、受診すべきかどうか迷う場合については、まずかかりつけ医かワクチンを接種した医療機関へ相談していただく。集団接種会場でワクチンを接種した場合や、休日・夜間などかかりつけ医や医療機関に連絡が取れない場合に対応するため、「神戸市新型コロナワクチン副反応医療相談窓口」を設置。

1. 副反応医療相談窓口の概要

名称：新型コロナワクチン副反応医療相談窓口

電話番号：078-252-7155

電話での問い合わせが困難な方はFAX：078-570-5777

受付時間：24時間（土曜日・日曜日、祝日を含む）

対応言語：8か国語（日本語、英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語、タガログ語）（日本語以外は三者通話での相互通訳）

2. 運用開始日

令和3年5月10日（月）13時30分

（75歳以上の高齢者に対する集団接種会場でのワクチン接種開始日）

3. 相談体制

当初、看護師5名程度の体制で開始し、6月から10名以上の体制とし、最大20名まで増員可能な体制（人員・設備）を確保済み

4. 対応件数（5月10日～6月8日）

総数 1,309件 ※うち副反応の症状に関するもの 486件（37.1%）